

五

丙
一
九
五
五

立案 昭和九年一月廿日
決裁 昭和 年 月 日

爵位課長

宗秩寮總裁

宮内事務官

海務院標識技手長谷川長次郎
外一名叙位取消ノ件

昭和九年一月廿五日
臺帳記入 月 日
官報報告 月 日
達 濟

裏面白紙



海務院標識技手長谷川長次郎
外一名叙位取消ノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和十九年一月二十五日
内閣總理大臣東條英機

内

閣

人運位第七號

案起

昭和十九年一月廿四日

裁可

昭和十九年一月廿五日

施行

昭和 年 月 日

内閣總理大臣

内閣書記官長

（印）

内閣書記官

（印）

（印）

海務院標識技手長谷川長次郎
外一名敍位取消ノ件今般運輸通信
大臣ヨリ別紙ノ通奏請之有今更不
都合ニハ候得共事實已ムラ得サル儀
ト認メラルルニ付取消上奏相成然ルヘシ

内閣

裏面白紙

大日本帝國政府

秘恩第八五號ノ二

昭和十九年一月二十四日

運輸通信大臣官房秘書課長



内閣官房人事課長殿

叙位取消ニ關スル件

昭和十九年一月二十四日秘恩第八五號叙位取消ノ件上奏相成候左
 記ノ者ハ昭和十八年三月一日海軍技手ニ任セラレ同年四月二十八
 日大東亞作戰從軍中南太平洋方面ニ於テ戰死セルコト判明致候處
 右ハ全ク通信連絡不充分ノタメ事務ニ齟齬ヲ生シタルモノニシテ
 今更恐懼ノ至ニ候得共本叙位取消方御配意相煩度及御依頼候

記

發令年月日	叙位	官名	氏名	上奏書進達年月日番號
昭和十八年六月一日	從七位	海務院標識技手	長谷川 長次郎	昭和十八年五月十五日
"	"	"	吉岡 三郎	官秘庶第三四五號

裏面白紙



秘恩第八五號

一、海務院標識技手長谷川長次郎外一名敘位取消ノ件
別紙上奏書及進達候也

昭和十九年一月二十四日

運輸通信大臣 八田 嘉明



内閣總理大臣 東 條 英 機 殿

運輸通信省



46

裏面白紙